

教師ノート

週課	第一年 第八課 第四週
単元	使徒の働き・1
テーマ	サウロの回心
タイトル	サウロの回心
テキスト	使徒 9:1-22
参照箇所	使徒 7:54-8:4、13:9、22:3-16、26:9-18、Iコリ 15:9-10、ガラ 1:11-24、Iテモ 1:13-16
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	IIコリント 5:17
AG 日曜学校教案参照箇所	小上 3 巻 1 題 4 課、小下 2 巻 4 題 2 課、中 3 巻 1 題 2 課
メモ(情報・例話など)	<p>今回はサウロ(パウロ)の回心のテキストです。パウロは、世界に福音を伝えるために用いられた最も偉大な使徒と言われます。そのパウロは、初めはキリストを迫害するものでしたが、イエスによって変えられたという事実を伝えます。劇的なインパクトのあるシーンです。神はどんな罪人をも愛して救ってくださり、ご自身の栄光のために用いてくださるというメッセージが、子どもたちの心に届くように、祈って準備しましょう。</p> <p>☞ 数人のCSスタッフの方でスキットをしてみたいかでしょうか？本格的な演技をしなくても、ストーリーをそのまま演じるだけで効果的です。その他、紙芝居なども、有効活用しましょう。</p> <p>☞ メッセンジャーは、22章と26章も必ず読んで、テキストの理解を深めましょう。さらに(Iコリント 15:9～10、ガラテヤ 1:11～24、Iテモテ 1:13～16)も参照しましょう。</p> <p>□ 導入</p> <p>あなたは、お友だちのことを「あんな悪いヤツは絶対に救われない」とか「あいつは意地悪だから教会にさそわない」と思ってしまったことはありませんか？神さまは、どんな人を愛してくださるのでしょうか？頭の良い人でしょうか？優しい人でしょうか？いじめっ子でしょうか？とんでもない悪者はどうでしょうか？</p> <p>☞ 必要に応じて、導入部で、後のパウロがいかに用いられたかということ、簡潔に伝えましょう。①危険を顧みず船で海外に出て行って宣教し、各地に教会を建てた。②世界の中心であったローマでも伝道するなど、福音を世界中に広げるために最も貢献した。③新約聖書の大半は、パウロが書いた手紙で構成されている。</p> <p>□ポイント1 サウロは、イエスさまを信じる人を激しく迫害する者でした(1-2節)</p> <p>サウロはステパノ殺害について賛成し、荷物の番の役をしていました。それから起った激しい迫害の先頭に立ち、教会を荒らし、家々に入って男も女も引きずり出し、次々に牢に入れました(7:58-8:3)。さらに殺意に燃え、イエスを信じる人を見つけたらどんどん捕まえてもよろしいという許可を、大祭司から取り付けました(26:11参照)。(サウロが「同年輩の多くの者たちに比べ、はるかにユダヤ教に進んでおり、先祖からの伝承に人一倍熱心」であった(ガラテヤ 1:14)ゆえに、キリスト教に激しい反感もちました。彼にとって、イエスが神の子キリストであると主張することは、神への決定的な冒瀆と思われました。)</p> <p>☞ パウロのユダヤ教的背景について、詳しい解説は省略してもかまいません。特に低学年には「サウロは、キリスト教徒を激しく迫害していた」という事実を伝えるだけで充分でしょう。</p> <p>☞ サウロ→パウロに名前の記載が変わるのは13:9から。「サウロ」はギリシャ語名パウロのユダヤ形。</p>

□ポイント2 イエスさまが、サウロに直接語りかけられました(3-19節)

(ダマスコに向かった目的は、パレスチナの外に逃げたキリスト者を追跡して捕らえるためでした。)その途上でイエスはサウロに声をかけられました。(イラストとセリフで3~19節の場面を子どもたちに伝えましょう)迫害運動の首謀者サウロにとって、復活の主に出会ったことはどれほどの衝撃だったでしょうか。圧倒され、困惑し、今までしてきたことを強烈に悔い、呆然としたでしょう。アナニヤはダマスコに住むイエスの弟子で、「律法を重んじる敬虔な人で、そこに住むユダヤ人全体の間で評判の良い人(22:12)」でした。彼にとって、あのサウロが回心するとは信じ難いことでした。しかし主は、激しくキリストを迫害したサウロを、ご自身の栄光のため、特に異邦人伝道のために選んで用いると宣言されました。なんとという大きな愛でしょうか！神の祝福の計画は、人知では計り知れません。アナニヤが祈ると、サウロの目は見えるようになり、彼はバプテスマをうけました。

☞「わたしはあなたが迫害しているイエスである」ということばから、(1)これを主イエスご自身が語っておられること、(2)クリスチャンを迫害すること＝イエス自身への迫害を意味することがわかります。

☆「3日の間、サウロはどんなことを考えて過ごしただろう?」、「どうしてイエスはその場ですぐにサウロを悔い改めに導かなかったのだろう?」など子どもたちと一緒に考えると楽しいでしょう。

□ポイント3 サウロは新しく変えられて、イエスさまのことを伝える人になりました(20-22節)

サウロは新しく生まれ変わりました。彼はすぐに「イエスさまは神の子です」と伝え始めました。サウロが以前と全く変わったのを見て、人々は驚き、神のすばらしさがほめたたえられました。サウロ(パウロ)は、イエスの言われたとおり、福音を異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、神の選びの器として用いられました。彼は言いました。「私は使徒の中では最も小さい者であって、使徒と呼ばれる価値のない者です。なぜなら、私は神の教会を迫害したからです。ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。」(1コリント15:9-10)。

□結論 神さまは過去にどんなひどいことをした人も救ってくださり、イエスさまを証しする者として用いてくださいます

神さまは、どんなに悪い人でも悔い改めさせてくださいます。はじめから良い事のできる人だけを救うのではありません。罪人を救って、新しく変え、用いてくださるのです。 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1)まず、あなた自身が救われて、新しくされたことを感謝しましょう。あなたが良い子だから救われたのではありません。サウロのような迫害活動はしなかったかもしれませんが、神さまに背を向けて生きてきました。それでもイエスさまは救ってくださり、新しくつくり変え、福音を伝えるために用いてくださることを感謝しましょう。

例2)あなたは「あんな悪いヤツは絶対に救われない」とか「あいつは意地悪だから教会にさそわない」と思ったことがあるかもしれません。しかし、イエスさまはそんな人をも愛しておられます。イエスさまはその人を、命と引き換えに買い取られたのです。イエスさまは、どんな人も救ってくださり、新しくつくりかえてくださることを信じよう。

例3)まだイエスさまを信じていないお友だちは、イエスさまがサウロに語りかけて下さったのと同じように、あなたにも必ずイエスさまとの特別な出会いがあることを信じましょう。今までの罪は、すべて赦してください、神さまのすばらしさを表すように、新しく変えてくださいます。

例4)クリスチャンホームのお友だちは、サウロのように神さまに敵対したことがないかもしれません。そのように守って下さったことを感謝しよう。あなたも、(両親がクリスチャンだったからというだけでなく)サウロのように、個人的にイエスさまと出会いたいと思いませんか?そして、新しく生まれ変わる体験をしたいと思いませんか?あなたが求めれば、必ずそれは体験できます。